家　庭　科

水　野　郁　代

1　家庭科の授業における集団で学ぶよさ

家庭科では、その本質を「家族の一員として家庭生活をよりよくしようとすること」、本質に基づく基礎・基本を「よりよい生活をめざし主体的にかかわり創意工夫しようとすること」とし、実践的態度を育てることを重視して研究を進めてきている。つまり、獲得した知識や技能を再構築しながら積極的に活用し、自らの課題の解決をめざして、生活を工夫したり創造したりする能力の育成が重要だと考えている。

具体的には、家庭科の授業で「家庭生活の中から課題をとらえ、工夫し解決していこうとする姿」をめざし追求してきた。その結果、自分の家庭生活を見つめたときの新鮮な発見や思いを出し合うことから、子どもは家庭生活に関心をもち、課題意識をもつようになってきたと考えている。しかし、課題追求の広がりや深まりは、十分とは言えなかった。これは、教師の授業構成や手だてだけでなく、個と全体の相互関係、つまり、深め合い高め合う作用の不十分さに要因があると考えられた。

そこで、上のような課題の対処に向け、今年度は集団で学ぶことのよさということを大切に授業研究を行っている。家庭科の学習は個の家庭からスタートし、実践により個の家庭にもどる学習である。しかし、集団で学び、他者の家庭生活や家族に対する見方・考え方、家庭生活の仕方にふれることを通して、個の学びが深まり高まると考える。そして、家庭科の授業でいう集団で学ぶよさを次のように捉えている。

家庭生活に対する見方・考え方を深め よりよい生活の仕方をつかむことができる

以下、家庭科で考えている集団で学ぶよさと個の学びのかかわりについて述べていく。

まず、自分の家庭生活を見つめることで、普段何気なく過ごしていて気づかなかった日々の生活が見えてくる。見つめたことを出し合う中で、家庭生活といっても百人百様であり、それぞれの家庭で人と物がかかわって、その家独特の味や生活をつくっていることに気づくことができる。それにより、自分らしいよりよい家庭生活をつくりあげることに対する関心が芽生え自分の家庭生活の中から自分なりの課題を捉えるようになると考える。

次に、追求段階では、意欲的に解決できるように、また実感をもって学習できるように実践的・体験的な活動を多く取り入れる。実験や実習、製作、調査などの活動は、同じ課題をもった小集団ですることが多いが、小集団の中で他者のやり方を見たり、教え合ったりすることができる。追求後の発表や家庭実践報告などの交流の場でも、自分とは異なる追求方法や見方・考え方にふれることになる。このように子ども相互のかかわりの中でいろいろな見方・考え方や方法があることを子ども自身が知り、他のよさを取り入れたり見直したりして、自分の考えを再構築することができると考える。これにより、家族や家庭生活への関心や理解も一層深まるのである。また、自分の見方・考え方や方法が他者に認められると、自分の追求活動に自信をもち、より意欲的になると考える。そして、家族の一員としての自分のあり方を考え、学習したことを家庭生活に生かしていくことができるようになると考える。

以上のように、家庭科の授業で集団で学ぶよさが個の学びに作用することにより、課題をクリアし、より家庭科の本質に迫り、基礎・基本の定着、伸長につながると考えている。

2　集団で学ぶよさが息づく授業へのアプローチ

(1)　学びのシェアのプロセスとのかかわりから

子どもが自分の家庭生活を見つめたとき「へえ知らなかった」「なぜなんだろう」「どうすればいいのだろう」「もっと詳しく知りたい」「やってみたい」「自分もできるようになりたい」「自分の生活に役立てたい」など驚きや共感、疑問、願いが生まれてくる。この素朴な思いや願いを分かち合うことにより、問題意識が芽生え、自分なりの課題をもつことになると考える。

そこで、毎日の生活で気づいていないことや見えていないことに対して関心を向けたり調査観察する期間を設けたりして、まず、子どもが自分の家庭生活をよく見つめることができるよ

うにする。また、身近な生活から子どもにとって驚きや意外性のあることなどを提示して、共通の出会いを工夫し、それぞれが家庭生活に対する自分なりの見方・考え方をもてるようにする。そして、課題を捉えることができるように自分の家庭生活を見つめることにより生まれた素朴な思いや願いを素直に表現できるような場を設ける。発言だけでなくつぶやきやノートの言葉、調べ活動の様子などからも子どもの思いや願いを取り上げるようにしたい。一人一人の思いや願いを出し合う中で共通点を探り、集団としての課題の共有を図る。

さらに、子どものもった課題が学習のねらいにつながり、的確なものになるように、題材の特徴を捉えた多様なふりかえりを取り入れる。ふりかえりの視点をはっきりさせて子ども自身が題材についての自分の実態を把握できるようにしたい。また、設定した課題が自分の家庭生活に生かせるかどうか見極めさせることで子ども自身が自分の課題に納得して追求していけるようにする。そうすることで、追求意欲も高まると考える。

課題設定後には、既習の知識や技能を手がかりにして、あるいは本やインターネット、実際の生活などから情報を得て、解決の方法を探り子ども自らが課題解決していくようにしたい。その際、多様な資料を用意するだけでなく、小集団で助け合って追求する場や子ども同士で教え合う場を設定し、工夫して追求できるようにする。

そして、追求後の発表や家庭実践報告会などでわかったことやできるようになったこと、工夫したことなどを交流するようにする。その際互いの考えや方法を聴き合い、認め合うことが大切である。自分とは異なる追求方法や見方・考え方にふれ、他者のよさを取り入れたり見直したりすれば、互いに家族や家庭生活への理解や思いを深めたり、よりよい生活の仕方をつかんだりできると考える。そして、自分の家庭生活をよりよくしようという思いが高まり、身につけた知識・技能をもとに創意工夫する力や自分の生活に生かし活用する力とかかわりながら家庭実践へとつながっていくと考える。

(2) 規範について

家庭科における学びを高めるために、大切にしたい規範を次のように考える。

・自分の家庭生活に関心をもち課題をつかむ

家庭生活の有り様は多様である。家庭ごとにその家独自の生活の仕方があることに気づかせるとともに、家族や家庭生活に対する自分なりの思いや考え、課題意識をもつことを大切にしたい。

・他者のよさを認め、自分の考えや解決方法をよりよくする

自分とは異なる見方・考え方、方法のよさを認め、それを取り入れたり、自分の見方・考え方、方法を見直したりして、自分なりに解決方法を工夫しようとすることである。

・学びを生かし、自分の家庭生活をよりよくしようとする

これは身につけた知識・技能を自分の家庭生活に生かし、家庭実践することである。

これらの規範は、先に述べた家庭科の課題解決的学習を通して育まれるものであり、学習のポイントごとにその意義を自覚できるように促していきたい。家庭科の規範だけでなく、学級を基盤とした温かい人間関係をつくり、自分の思いや考えを素直に表出できる、互いの考えや方法を認め合えるような教室集団の規範を育て互いに作用しながら家庭科の学びを高めていきたい。

(3) 評価について

評価活動の積み重ねで自己の高まりや集団で学ぶよさの自覚を促すようにする。その単元でわかったことやできるようになったこと、家族や家庭生活に対する新たな思いや自分で生かしてみようと思ったことなどを適宜、授業の終わりに記録しながら学習を進めたい。その際、だれのどのようなことで、自分の考えや方法が変わったり、よさに気づいたりしたかについても書くように促し、それを広めることで集団で学ぶよさを自覚できるようにする。単元の終わりにもう一度記録しておいたものをふり返ることにより、新しい知識や技能を獲得した自分、自分なりに工夫して解決しようとした自分に気づき、次への見通しや意欲をもつようにしたい。

学習したことを生かし、家庭で実践したときには実践カード（チャレンジカード）にその様子と自己評価を記録する。それに加えて実践の様子を見た家族の評価や実践発表を見聞きした友達・教師からの評価を入れる。それを通して互いのよさやがんばりを実感し合うと共に、自分の高まりや可能性を自覚できるようにしていきたい。人から認められたり、家族から励まされたりすることで子どもは、さらに自信をもって次の活動に励んでいくものと考える。

3　実践例　－５年－

４月、クラス替えのためか、子ども達は緊張しながらも「早く友達となかよくなりたい」「新しいクラスでがんばりたい」という雰囲気が見られた。そして、友達のよさを見つけ、帰りの会で広めるすてきな姿も見られた。しかし、授業中の発言は一部の子どもに限られ、それも教師に向かって話そうとする子がほとんどで、教師に認められればそれで満足という感じであった。自分の考えや思いを心開いて話そうする子どもは少なく、全体で話し合い、学習を広めたり深めたりという状態ではなかった。

そこで、集団で学ぶよさを実感できるような活動を取り入れ、教室の規範を育み、自分の考えや方法を素直に表現し交流できるようにしたいと思った。交流を通して、友達のよさを認め、よりよい方法をつかんだなら、自分の家庭生活に生かそう、自分の家でやってみようという意欲が生まれ、実践的態度を身につけることができると考え、授業を構成した。

(1)　題材名　わたしにまかせて　～身の回りの整理・整とん～

(2)　目　標

・自分の生活場所に目を向け、気持ちよく生活するために整理・整とんや不用品の処理の必要性とその仕方がわかり、工夫して自分の生活に生かそうとする。

(3)　家庭科としての学びと教室の規範にかかわって

本題材は、家庭科で自分の生活している場所・空間に目を向ける初めての題材である。子どもは、学級指導で整理・整とんやそうじの必要性、学校のそうじの仕方などを習ったり、社会科でごみのしまつについて学習したりしてきているが、ここでは、気持ちよく生活することができるように、整理・整とんや不用品の処理について子どもなりに工夫して、日常生活で実践化できるようになることをねらいとしている。本題材で、子どもが整理・整とんや不用品の処理に関する自分の問題について、一人一人の考えを生かしながら主体的に課題解決する活動を行うことにより、子どもが機能的な整理・整とんや不用品の処理の仕方を体験的に習得し、日常生活で生かすことができるようになるだろうと考える。

しかし、整理・整とんや不用品の処理は、子どもにとって興味や関心の強いものではない。子ども達の生活を見ても、整理・整とんの必要性がわかっていてもできない子、見た目がきれいであれば整理・整とんできていると思っている子が多く、機能的なことを考え整理・整とんを心がけている子は少ない。また、深く考えずにいろんなものを購入し必要以上にものがあったり、ものを大切に扱わなかったりする姿も見られる。

そこで、自分が生活する場所に注目させ、自分の生活の仕方をふり返る中で、自分の問題点をとらえることができるようにする。そして、自分の思いや願いを出し合い、分かち合うことで＜身の回りを整理・整とんし、快適にしよう＞という集団としての課題の共有を図りたい。課題追求にあたっては、観察や調査、試しの実習などの体験的・実践的な活動を取り入れ、具体的に実感をもって学習できるようにする。そして、追求してわかったことや自分の考え方、整理・整とんや不用品処理の仕方、工夫点などを交流する場を設け、互いのよさを認めたり、アドバイスしたりするようにする。これを通して、自分の考えた方法に友達のよさを取り入れたり、自分の方法を見直したりして、よりよい方法を工夫し自分の生活に生かすことができるようにしたい。そうすることで、子どもは集団で学ぶよさを自覚できるようになっていくと考える。

(4)　集団のよさが息づく授業へのアプローチ

①　「学びのシェア」とのかかわりから

整理・整とんの課題解決にあたって、学校や家庭での観察・聞き取り調査などの具体的活動を行い、整理・整とんのポイントを調べる。それでも、実感をもって整理・整とんの仕方をつかめないと思われるので、まず共通課題としてペアでホワイトロッカーの整理・整とんの実習をする。ペアで行うので、二人が使いやすいアイデアを出し合い相談しながらできるであろう。その後、交流の場を設け、他のペアのよい考え方や工夫点、改善点を見つけたり、自分でも取り入れたいアイデアをメモしたりする。それを出し合い、認め合ったり教え合ったりすることで互いに自分の考えや方法をよりよくしようという意識を高めていけるのではないかと考える。不用品の

処理では、ごみの多さを実感し、捨て方について意識を高めるために、実際に収集場所の観察やごみの分別活動を行う。その後、ごみを減量する方法について調べたことを交流し、自分で工夫してできるようにしたい。そして、学習したことをもとに、家庭や学校で自分の課題にむけて進んで実践できるように実践カードを用意する。実践後に報告会を設け交流することにより、自信をつけたり、さらによい方法をつかんだりして、実践化を図ることができると考える。

単元計画（総時数５時間＋課外）

主な活動と内容	主に意識する規範	評価のポイント
1 ・整理・整とんされていない勉強部屋のイラストを見て問題点を話し合う		
<自分の生活の場所のようすを思い起こしてみよう>	(2)	
・自分の生活のようすをふりかえり　気がついたことや問題点疑問点を出し合い　課題をつかむ ・ぐちゃぐちゃで　どこに何があるかわからない ・使わないものやごみがある ・整理・整とんしたり、そうじしたりしないといけない状態だ ・机の引き出しがすぐに乱れる　学校のロッカーもだ ・かたづけても　すぐちらかってしまう　　どうしたらいいのかな ・よい方法を見つけて　きれいに使いやすくしたいな		自分の生活場所の問題点に目を向け　よりよくしようという意欲をもつことができる
身の回りを整理・整とんし　快適にしよう		
2 <整理・整とんのよい方法を見つけよう！試してよう！>	(1)	
・整理・整とんの仕方のポイントを調べる ・上手な人や家族はどうしているのかな　聞いてみよう　見てみよう ・本やインターネットでも調べてみよう ・調べてわかったことを出し合う ・分かりやすいように　出し入れしやすいように　目的　種類　形　大きさ　使う回数　置く場所など　を考えるといいようだ ・そのために　整理・整とんグッズも工夫するといい ・調べたことをもとに　ホワイトロッカーの整理・整とんの方法をペアで考える		進んで調べたり考えたり交流したりして　整理・整とんのポイントをつかみ　自分なりに工夫し　日常生活に生かそうとしている
<ホワイトロッカーのよい整理・整とん術をGETしよう>	(1)(2)	
・ホワイトロッカーの整理・整とんの実習をする（ペアで） ・友達のしかたを見て回り　よさや工夫点　改善点を見つける ・よいアイデアだと思ったことや気づいたことを話し合う ・これからの実践・自分の課題解決について考える		
3 <不用品の活用やごみの出し方をくふうしよう>	(1)(2)	
・ごみの出し方について調べてきたことを発表し合う ・分別している ・ごみによって収集日　時間　場所が決まっている ・粗大ごみは有料なものがある ・危険なものは出すときには気をつけて出している ・実際にごみの分別を行う ・ごみを減らす工夫について調べる ・作らないように　・出さないように　・再利用 ・調べたことを発表し合う ・これからの家庭実践について考える		ごみを減らす工夫に関心をもち　進んで調べ　生活に生かそうとしている
4 今まで学習のふりかえりと実践報告会	(1)(2)	今までの学びを生かし自分の生活をより快適にすることができる
・前よりも上手にできるようになったし　気持ちがいい ・家の人にもほめられて　またやろうという気になっている ・今度は□□に友達の方法を取り入れてみよう		

教室の規範　(1)　他者を認める
　　(2)　自分の考えや方法をよりよくしようとする

② 規範について

本題材では、ペアで、あるいはグループで、全体で、子ども同士が相互に交流する場を多く設ける。交流で自分の方法に友達のよさを取り入れたり、自分の方法を見直したり、互いに高め合うことにより、よい方法を工夫し自分の生活に生かすことができるようにしたい。このように、一人一人のよさを生かした集団での学び合い、高め合いをすることで、「他者を認める」「自分の考えや方法をよりよくしようとする」という規範意識を育むことができると考える。

③ 評価について

整理・整とんや不用品処理に関してわかったことやできるようになったこと、思ったこと、自分の生活に生かしたいことなどをその都度記録に残しながら学習を進め、子どもなりに自分の変容を自覚できるようにする。また、方法や工夫したこと、感想・意見などを交流することで、友達のよさや友達からのアドバイスを取り入れ、自分の方法を一層よいものに修正したり、自分の方法に自信をもたせたりして、実践意欲を高めたい。実践報告会では、自己評価に加え、友達や家族の評価をもらい、次の実践への励みにしたい。

(5) 本題材における授業の実際と考察

① 自分の生活場所の課題をつかむ

自分の生活場所の問題点に目を向け　よりよくしようという意欲をもつことができる

整理・整とんされていない勉強部屋のイラストを見たとたん、子ども達は、「わあ、すごい」「きたない」と言い、困ることをどんどんあげてきた。それは、多くの子どもが普段経験していることなので、イラストでも自分が整理・整とんしてなかったときのことを十分思い起こすことができたのだろう。そこで、現在、自分の身の回りがどうなっているか見つめる時間をとることにした。その結果、乱れている、すぐ乱れてしまう場所として、家では机の引き出しや机の上、本だな、タンス、玄関などを、学校では道具箱やホワイトロッカーをあげていた。そして、資料1のような気づきや思いが出てきた。

A児：おもちゃ箱が問題だ。おもちゃを入れるばかりで奥に引っかかり出せなくなることがよくある。無理に出そうとして、引き出しにひびが入ってしまった。
B児：ホワイトロッカーの中がごちゃごちゃしている。道具箱には紙くずが多い。
C児：ホワイトロッカーがぐちゃぐちゃだ。出したものをほっとくのが自分の問題点だ。後かたづけをどうしたらいいのかわからない。
D児：机の引き出しにほうりこむだけでしっかり整理・整とんしてなかったり、机の上も勉強道具や本でごちゃごちゃしていて　勉強がやりにくくなっている。きれいにしてもすぐきたなくなってしまう。
E児：机の引き出しの整とんのやり方が知りたい。
F児：机の上も部屋もきたない。
かたづけがでたらめなので、どこに何があるかわからない。どのようにものを置いたらいいか学習したい。
G児：道具箱の中にいろんなものが入っていて、とても使いにくい。
ホワイトロッカーの体育袋もだれのかよくわからない。
一度整理してもすぐきたなくなるので、いい整理のしかたを学習したい。
H児：机の上や引き出しはいろいろなものがあってごちゃごちゃしている。
できるだけきれいにしているつもりだが、自分の場所をもっと快適にきれいにしたい。

資料1　自分の整理・整とんの仕方を見つめて

多くの子どもが上記のように話したり書いたりしていたので、自分の問題点をよりよくしようという意欲をもつことができたと考える。そこで＜身の回りを整理・整とんし、快適にしよう＞という本題材を通す共通課題を設定し、自分の課題場所を快適にしようとつなげていった。

② 整理・整頓のよい方法を調べ、試す

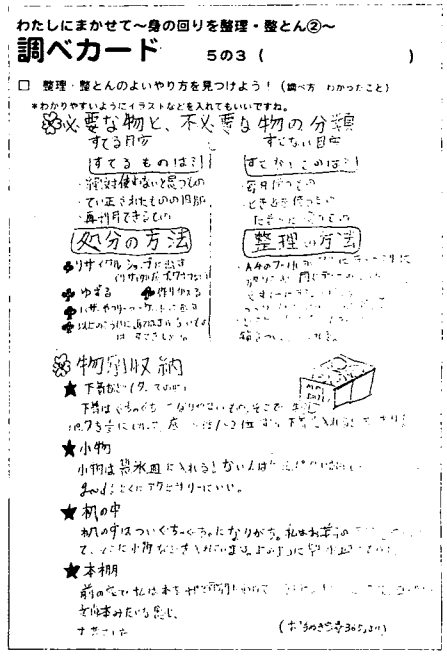
進んで調べたり考えたり交流したりして　整理・整とんのポイントをつかみ
自分なりに工夫し　日常生活に生かそうとしている

自分の課題を解決するにはどうしたらよいか話し合ったところ、「整理・整とんのよい方法を調べ、試してみたらいい。それをもとに自分の家で工夫して実践すれば、今より気持ちよくなるはず」ということになった。そこで、以下のように活動を進めた。

ア　整理・整とんのよい方法を調べる活動

調べる方法として、家の人や上手な人に聞く、本やインターネットで調べる、よく整理・整とんされている所を実際に見てみる方法があることをおさえ、課外で調べた。多くの子は家の人に聞いて調べてきたが、F児のように本で調べたり自分の家でしていることをまとめたりしてくる子もいた（資料２）。

調べてきたことを出し合った結果、いるものといらないものを分ける、何がどこにあるかよくわかるように種類ごとや大きさごとに置く、ラベルや仕切り・かご・小箱などを使ってわかりやすく出し入れしやすいようにする、よく使うものはすぐ取り出せるように手前や近くに置く、使ったらすぐ元にもどすなどがポイントだとわかった。中には整理・整とんグッズがあると便利だということがわかり、オリジナルグッズを作ってみたいという子や自分の課題場所の整理・整とんのアイデアを考えてくる意欲的な子も見られた。しかし、話し合いだけでは実感できず、具体的にどうしたらよいかわからない子もいると思われたので、自分の課題場所をする前にホワイトロッカーの整理整とんの実習を共通課題として取り入れた。


わたしにまかせて～身の回りを整理・整とん②～
調べカード　5の3（　　）
□ 整理・整とんのよいやり方を見つけよう！（調べた方　わかったこと）
*わかりやすいようにイラストなどを入れてもいいですね。
必要な物と、不必要な物の分類
処分の方法
整理の方法
物の収納
★小物
★机の中
★本棚

資料２　F児の調べカード

イ　ホワイトロッカーの整理・整とん（ペア学習）

整理・整とんは、他の人が何と言おうと自分が使いやすければいいということで、独りよがりになることがある。しかし、ホワイトロッカーは二人で１つ使っているので、お互いのアイデアを出し合い、二人が使いやすい方法を考えることができてよかった。実習本番に向け、計画書（アイデアスケッチ）をかくようにしたが、すぐに試してみるペアや使うものを早速準備するペアなど意欲的なペアがいくつも見られた。実習本番、どのペアもよりよくしようと協力しながら生き生きと行っていた。準備もできているので、１０分程で実習できるだろうと考えていたが、少しでも工夫しようと計画書にはなかったことをするペア、予定時間で終わらないペアも出て、交流時間が足りなくなってしまった。計画書をはっておき、後から考えついたことはしない約束にしておくとよかった。子どもの考えたものはだいたい資料３のようなものである。普段整理・整とんが苦手なR児とH児のペアはスライド式のふた付き引き出しを手作りし、友達を驚かせていた。また、空き箱でホワイトロッカーにぴったりの取っ手つき引き出しを作ってきたT児にもみんなびっくりしていた。今回、ダンボールや空き箱、タフロープ、ガムテープなど、あまり丈夫ではない見た目がよくない素材で作ったペアが結構あった。子ども達はそれでも満足しているようだったので、美しく長持ちするかどうかは後で考えさせることにした。

←写真１　ダンボールと空き箱で中段を作ったアイデア（右ロッカー）

資料３　子どもが考えた整とんのアイデア

- ダンボールなどで引き出しを作る
- ほこりよけのシートやカーテンをつける
- ダンボールなどで仕切りや中段を作る
- ぬいだ制服をかけるハンガーを置く
- 使いやすさを考えてバックや体育袋、通学帽絵の具セットなどの置き場所や入れ方を工夫
- 小物などをいれるかごや空き箱を置く　　など

ウ　ホワイトロッカーの整理・整とんの方法を交流

ペアで実習後、自分達の工夫した点・見てほしい点をカードに書きロッカーの上にみんなに見えるように置くことにした。そのカードと実際の様子を見て回り、見つけたよいアイデアをメモするだけでなく、よいと思うものに青シール、自分に取り入れたいものに赤シールを、アドバイスがあるものは付箋紙にそれを書き、友達のカードにはるようにした。１５分程見て回った後、見つけたことを出し合い、それをもとに整理・整とんの基本的な観点をおさえるようにした。

「他者を認める」「自分の考えや方法をよりよくしようとする」と言う観点がシールや付箋紙のアドバイスカード、交流メモなどの手だてで子どもの目に見える形にしたのは、学びをシェアするのに有効であったと思われる。交流後の話し合いでも、観点がはっきりしていてよかった。しかし、見つけたことを広めたり、ふり返ったりする時間がなくなり、次の時間にかかってしまったので、２時間続きの授業にするとよかった。せっかく二人で一生懸命考えて行ったのだから、一人がアイデアをアピール、もう一人が見て回るワークショップ形式で交流すれば、もっと違う面も見つけ合うことができ、深まったと思われる。また、交流カードにわかりやすさ、出し入れしやすさ、じょうぶさ、美しさなど整理・整とんの観点を先にもたせ、５段階評価してまとめる方法も考えられた。

問題も残る交流であったが、ふりかえりを見ると、子どもにとっては意味ある学習であったと考える。それは、K児やY児のように快適な整とんの仕方を実感できた子、I児やH児のように集団で学ぶよさを実感できた子、M児のようにさらによりよいものにしよう、家での課題実践でこんなことをしてみたいという意欲もった子など（資料４）がたくさんいたからである。

資料４　交流後のふりかえり

○T児ふりかえり抜粋
今までただ入れていたけど、ダンボールの引き出しやかごを使うだけでもわかりやすいとわかった
○Y児
自分達ではいいなと思うことも、人によっては使いにくかったりするんだなと思った。アドバイスにも納得するものがあったので、終わった時、少し改良してみた。家とかでもきちっと整とんして使いやすいようにしたいです。やっぱり整理・整とんは大切なんだと思った。
○I 児
どれもちがうアイデアですごいと思った。みんなのアイデアを見ることができ、栄養になってよかった。みんなで学び合って自分を伸ばしていけばいい。そうすればみんながきれいになるし、それが続くと思う。
○H児
一人一人がいろんなアイデアをもっているし、二人で協力し合うと自分が知っているアイデアの２倍になる。それを使えば新しいやり方やグッズができる
○M児
ロッカーを自分なりに工夫してかたづけるのが楽しかったです。一人が使いやすくてもみんなが使いやすくなくちゃだめだとわかった。みんなからもらったアドバイスでいいアイデアがうかんだので新しいことを工夫したい。（イラスト入り）また、自分の部屋とか机の中を今日のことを生かしてがんばります。家では、取りやすさ出し入れ、区切り、見た目を考えてやりたいです。

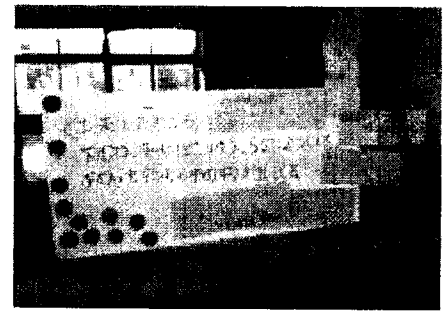


写真２　友達からもらったシールやアドバイス

写真３　ほこりよけカーテンと手作りの引き出しをつけたアイデア

③　不用品やごみの出し方を調べ、工夫する

ごみを減らす工夫に関心をもち　進んで調べ　生活に生かそうとしている

ごみについては４年生でも学習してきたので、地域での収集のことなど、子ども達はよく知っていた。しかし、ごみ出しの手伝いをした子はいても、自分で分別をきちんとしている子は少ないと思われたので、ごみを分別する活動を取り入れた。調理実習時、子どもの出したごみを見ると案の定、生ごみの中に資源ごみが混ざっていたり、洗わずに出した容器が入っていたりした。

そのごみを提示すると、子ども達はびっくりするとともに、わかっていてもできてないことを実感した様子であった。早速そのごみを一つずつみんなで分別し、どのように出したらよいか確認した。そして、教室や家でごみを出すときには、よく見て分別し、出そうということになった。

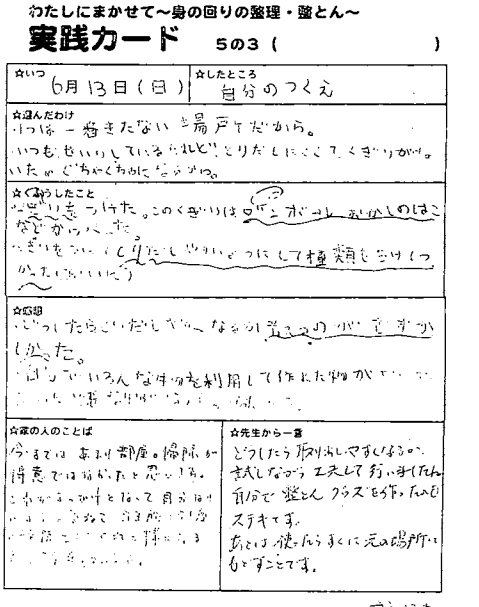
ごみを減らす工夫調べでは、家の人に聞いたり本やインターネットで調べたりして、いろいろなアイデアが出された。これに関する情報はたくさんあるので、調べやすかったようである。しかし、話し合ううちに自分ではできそうにないと思われるものやたまにするのはいいけどというもの、かえって他のものをむだづかいすることになりそうなものなど、実践が難しいものがあることがわかってきた。そこで、これなら続けられそうなものを選び、実践することにした。

④ 今までの学習のふりかえりと実践報告会

今までの学習を生かし　自分の生活をより快適にすることができる

導入時に自分の課題だと決めたところを家庭で整理・整とんしてきた。実践カードの記録からは、子ども達が調べ活動や実習、交流で学習したことをもとにいろいろ工夫して行ったことが読みとれた。そして、「やってみたらごみ（不用品）がたくさん出てきてびっくり」とか「すっきり気持ちよくなった」「使いやすくなった」「これから出したらすぐ元の場所にもどしていつもきれいにしたい」などの感想をもった子が多かった。また、家の方からもがんばりを誉める言葉や励ましの言葉、アドバイスをもらい、子ども達はうれしそうであった。（資料５）

また、同じ課題にチャレンジした子同士で実践交流を行ったが、ビフォー・アフターの写真を見せながらしたのはわかりやすくてよかった。実践交流して、またやってみたいアイデアを見つけた子もいた。後日、あゆみにも学習したことを生かして、整理・整とんしたことを綴った子がいて、実践化を図ることができたと思われる。


わたしにまかせて～身の回りの整理・整とん～
実践カード　5の3（　　）

☆いつ	☆したところ
6月13日（日）	自分のつくえ

☆ほんだわけ
小つぼ一番きたない。引戸だから。
いつもせいりしているけど、とりだしにくくてくずれがち。
いためぐちゃくちゃになるから。

☆くふうしたこと
ぴったりをつけた。このくぎりは
などからとった。
ぎりもついてる。たしかめるようにして種類もなげいつかたらいいな。

☆感想
やってみたらこわれたらさいなるのが見えるのがこわかった。
困ったいろんなものを利用して作ったものがたくさんあったから、来年なやまされるとおもった。

☆家の人のことば	☆先生から一言
今までは あまり関心。掃除が得意ではないかなと思っていた。	どうしたら取り出しやすくなるか、試しながら工夫して行いましたね。自分で整とんクラスを作ったんだステキです。あとは使ったらすぐに元の場所にもどすことです。

資料５　M児の実践カード

(6) 題材を終えて

今まで述べてきたように整理・整とんの学習で、他者の考えや方法を認める姿、他者のよさを取り入れながら自分の方法をよりよくしようとする姿が見られた。ペア学習や交流活動を取り入れたことが有効だったのだろう。そのことから規範意識を育み、集団のよさを自覚することが、少しはできてきたように思われる。

身の回りの整理・整とんや不用品の処理という、子ども達にとっては必要性はわかっていてもあまり興味のない学習であったが、整とんの仕方を試してみる実習をペアで行ったのがよかった。自分たちのホワイトロッカーをよくしようと互いのアイデアを出し合い協力して整理・整とんしていた。ペアでの実習を通して整理・整とんの方法を具体的につかむことができたし、意欲的に取り組むことができた。その後の交流により、子ども達はホワイトロッカーの整理・整とんといっても多様な方法があることに気づき、友達の工夫に感心していた。ただ、それを十分広められなかったのが残念である。それでも、自分たちの考えや方法を友達に認めてもらい自信をつけたり、アドバイスをもらったりして、次の活動への意欲につながったと考える。自分の課題場所の整理・整とんでも、それまでの学習を生かし自分なりに工夫して実践することができた。

(7) 今後の課題

自分の学びを高めるためには、授業の場で学びのシェアがもっと広く、もっと深く行われるようにしていく必要がある。そのためには、交流のさせ方（場の持ち方、時間の確保など）を工夫するだけでなく、支え合える温かい人間関係づくり、コミュニケーション力（話す・聞く・表現する力）を一層育んでいかなければならないと考える。これは、家庭科の学習だけでできるものではない。他教科でも教師が常に集団で学ぶよさを想定した授業を構成し、個と個、個と集団が互いによく作用し合うように効果的に働きかけていきたい。